

東京日々新聞

九百十九号



去年十二月二十日の
頭信の如く
旅商人

るあじたるを人研知

山中に住炭焼のかつと
杖の商人の懐中へ

の老とふひ合せ
人無きありを幸ひと

男商人と、手は持し
おたあつとくく斬り

殺し所持の金手と
奪ひ取りあらざる

見しと思ひしより

つぐと身りとあきれし
知る者としてあつじが

天網はを免るべき彼の鏡は血のすゝめ
此事既に傳つてと實は畏るべき

蕙齋
芳幾
雙

甲金具足屋

水川栄

